

# 嵯峨野高校生による『源氏物語』商品紹介

## 商品名「萩の上露」

～光源氏・桐壺更衣・紫の上～

（紫の上）  
おくと見る  
ほどぞはかなき  
ともすれば  
風にみだるる  
萩のうは露

『源氏物語』御法（私がこうして起きているとごらんになっても、それは東の間のこと、萩の葉に露が宿ったと思う間もなく、ややもすればあっけなく風に乱れ散ってしまうように、すぐに消えはてることでしょう）※1

桐壺更衣は光源氏の最愛の母で、その母を光源氏は3歳で失いました。亡き母の面影を感じられたことから見初められたのが紫の上です。亡き母に似た初恋の人・藤壺の面影を探すように、光源氏はたくさんの恋をする中でも、紫の上への愛情はとても深いものでした。光源氏が大切に思う儂くも強い女性2人と光源氏の組み合わせです。「萩の上露」は、紫の上が自分の死を予想して詠んだ歌からとりました。この先の儂い命を、萩の上の露にたとえたものです。紫の上も桐壺更衣も、強くもありますが、儂くもある女性なので、この儂さをもとに名づけました。



光源氏は『源氏物語』の主人公で、父・桐壺帝の第二皇子として生まれました。母は桐壺更衣です。超美男子で、音楽、舞踊、書画等、様々なことに精通していました。その抜群のセンスと他の追隨を許さない色男ぶりに、世の女性は魅了されました。

光源氏が3歳の時、最愛の母・桐壺更衣を病で失います。後に、母の面影を他の女性たちに求め、数々の女性に

思いを寄せていきます。光源氏が22歳の時、紫の上と結ばれます。美しく、心も寛大な紫の上でしたが、心労が祟り、病に伏します。光源氏は彼女を苦しめたことを深く後悔し、彼女の死に際まで歌を詠み合いました。紫の上の死により光源氏は失意し、1年半後に出家し、その後2、3年後に光源氏も他界することになるほど、光源氏は紫の上を愛していたのです。

このチョコレートは、過去の出来事に対して後悔する気持ちや、愛する人を失った悲しみなど、光源氏の「闇」の部分を表しています。それでも際立って浮かび上がる美しさ、華麗さを金箔で表現しました。



桐壺更衣は、光源氏の母親です。更衣という高くない身分でありながら、優しい人柄と美しい容姿で桐壺帝の寵愛を勝ち取ります。しかし、それが他の女性たちに嫉妬され、いじめられて病気がちになってしまいます。それでも帝の格別な愛情にすがって懸命に生き、玉のように美しい皇子、光源氏を産みます。光源氏が3歳の時に病に倒れ亡くなってしまいますが、か弱くも、強い愛を持って生きた、儂く可憐な女性です。

桐の花をイメージし、落ち着いた色合いでデザインしました。更衣のつらくて苦い経験は内側の抹茶チョコレートで、美しく可憐な要素は金粉で表現しています。



紫の上は、『源氏物語』の女主人公とも言われる女性です。光源氏と1番長く人生を共にする女性でもあります。

光源氏の初恋の相手である藤壺の姪にあたり、容貌も美しく、藤壺とそっくりであったため、紫の上の幼い頃に、光源氏に見初められます。非常に賢く、何事にも優れていました。光源氏と紫の上との間には子どもができませんでした。そんな中、光源氏と明石の君の間に子どもが生まれた時も、女三宮が自分をさしおいて正妻の座についた時も、葛藤しながらも辛抱強く、ひたす

ら光源氏に寄り添いました。その我慢強さから、外見が可愛らしく美しいだけでなく、芯を持ったしっかりした女性というのがわかります。

15歳の夕霧(光源氏と葵の上の長男)が紫の上を初めて垣間見た際、あまりの美しさに樺桜に例えて歌を詠んだことから、チョコレートで樺桜を表現しました。樺桜の色はピンク色のみではなく、少し紫色を入れることで、より美しく華やかな、女主人公「紫の上」を表現しました。そして内面の強さは、抹茶の緑の葉で表現しました。

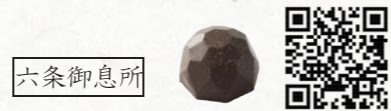
## 商品名「恋路」

～夕顔・六条御息所・玉鬘～

（六条御息所）  
袖ぬるる  
こひちとかつは  
知りながら  
下り立つ田子の  
みづからぞうき

『源氏物語』葵

（袖の濡れる泥 - 恋路であると一方では分かっていながらも、その泥の中に踏み込む田子のように恋の路に踏み込んでしまう私は、そうしたわが身のつたなさが思われてなりません）※2  
六条御息所、夕顔、玉鬘それぞれが光源氏と恋に落ちますがその道はそれぞれ違う道を歩みます。光源氏からの愛され方も愛し方もそれぞれ違うという意味で恋路と名付けました。



六条御息所は、大臣の娘という高貴な生まれで、奥ゆかしく美しい未亡人でした。完璧主義でプライドが高く、それ故に、光源氏へ自分の想いを伝えることができずにいました。嫉妬の感情が高まるあまり、生き霊となって、光源氏から寵愛を受けている夕顔や葵の上を恨み殺してしまうことになりました。生き霊としての自分の所業を知った時、六条御息所は、更に苦しむことになりました。

六条の高貴さや奥ゆかしさを表す小さなビターチョコレート、中には嫉妬や光源氏への愛情、自責の念を表現したラズベリーガナッシュが入っています。噛んだ瞬間甘さが口に広がり、苦味を含む後味です。



夕顔は従順で、素直で、控えめな女性です。

光源氏には自分の素性を知られないようにしていたため、光源氏からはミステリアスな女性と捉えられていました。ある日、光源氏と夜を明かそうとしていたところで六条御息所と思われる怨霊に、恨み殺されてしまいます。光源氏は、夕顔の死をとっても悔やみ、病に陥ってしまうほどでした。

光源氏に対する素直さを口に入れた時の甘さで表現し、病に陥ってしまうほどの心残りをほろ苦いコーヒチョコレートで表現しました。また、夕顔の花を施し、夕顔が光源氏に思いを伝えるために使用した扇を表現しました。



玉鬘は、夕顔の実の娘です。「玉鬘」という名は、つる草に由来しており、「夕顔」もつるを持つ植物です。田舎育ちにもかかわらず、聡明で教養のある美しい女性でした。そんな彼女は、母と同じように、光源氏に言い寄られた時、世間の目を気にして戸惑います。しかし、あらわな拒絶はせず、光源氏に親しみをもち始めますが、儂く亡くなった母・夕顔のようにはなるまいと、光源氏の愛を拒む芯の強さも持っています。

上品で柔らかな様子をバラのデザインで、芯の強さを酸味のあるストロベリーガナッシュとミルクガナッシュで表現しました。

## 商品名「淡月」

～光源氏・朧月夜・明石の君～

淡月は、春に霞に包まれ、薄くかす

んだ月のことです。朧月夜との別れ、明石の君との出会いの季節である春に、月が纏う淡く儂い雰囲気から名付けました。せめて夢の中だけでも会えたら、という切ない気持ちや恋への純情さは淡月の優しい雰囲気に調和します。



光源氏は兄・朱雀帝の婚約者である朧月夜と惹かれ合いますが、朧月夜の父・右大臣に密通が見つかってしまいます。左大臣の娘である葵の上を正妻に持つ光源氏にとっては、政敵である右大臣の娘の朧月夜との恋は、許されるものではありませんでした。左遷されて、明石にたどり着いた時に会ったのが明石の君です。

愛してはいけない人を愛する気持ちや、それがきっかけとなって新たな出会いを得た光源氏の気持ちを思いながら、お召し上がりください。



朧月夜はとても高貴な身分で、光源氏の兄の朱雀帝の婚約者でした。朧月夜はその結婚に気が進まない中、光源氏と出会い、2人は互いに惹かれていくことになります。

左大臣家の娘・葵の上の婿である光源氏と、右大臣家の娘である朧月夜の恋は許されません。ある日、共に過ごした翌朝に右大臣に見つかったことが、光源氏が須磨で謹慎生活を送る原因となります。朧月夜は、その後もずっと光源氏へ想いを寄せ続けます。

朧月夜の真っ直ぐで素直な気持ちを月花美人の花言葉～ただ一度だけ会いたくて～をチョコの形にして、純情でありながらも自分の気持ちに嘘をつかない芯の強さをビターチョコレートで表現しました。



明石の君は、光源氏が謹慎生活を送っていた地で出会った女性です。謙虚で素直な人柄と、田舎出身と思えない気品に、光源氏は惹かれていきます。

その後も、聡明な彼女は、幼い娘を紫の上の上に引き渡してからのつらい時期を耐え抜きました。その結果、娘は東宮妃になり幸せを手に入れます。明石の君は、光源氏との身分の差を常に気にしており、そんな彼女の一面を、中の抹茶チョコで表現しました。また、彼女は琵琶や琴の名手と言われていたため、4本の白い線で琵琶の弦をイメージしました。

## 商品名「絶えぬ思ひ」

～光源氏・女三宮・柏木～

（柏木）  
いまはとて  
燃えむ煙も  
おすぼほれ  
絶えぬ思ひの  
なほや残らむ

『源氏物語』柏木（もうこの世の最期と私を葬る煙も燃えくすぶって、あなたをあきらめきれぬ思ひの火はやはりどこまでもこの世に残ることでございましょう）※3

柏木は、光源氏の正妻である女三宮に対する思いが強く、愛に溢れています。その若さゆえ、相手には光源氏という人がいると知りつつも、あきらめない想いの強さ、おさえられない気持ちを踏まえ、「絶えぬ思ひ」と名付けました。



光源氏は40歳にして女三宮と結婚します。しかし、女三宮は幼く感じられ、理想と考える女性とは似ても似つかぬ彼女に失望します。彼女は柏木の子である薫を懐妊します。それに気づいた光源氏は人生で唯一の敗北を経験することになりました。

数多くの女性をとりこにした光源氏が、はじめて自分の女性を奪われてしまいます。女三宮を真ん中にし、光源氏と柏木とで挟み、三角関係であることを表現しています。



## 柏木



柏木は女三宮という女性のことがずっと好きでした。元来、内気な性格でしたが、一途に愛する心は誰よりも強かったのです。光源氏の正妻である女三宮に心ひかれてしまい、柏木は危険を冒して女三の宮と密会します。この柏木のおとなしい性格は抹茶の優しい色合いで、内に秘める熱い心は鮮やかな黄色のホワイトチョコレートと柚子ガナッシュで表現しました。

## 女三宮



女三宮は、光源氏の二人目の正妻となる人物です。物語の中では、未熟で幼く、可愛らしさのある人物として描かれています。彼女は、光源氏が留守の間に、女三宮に恋心を募らせた柏木と密通し、不義の子(薫)が生まれます。出産後、光源氏が自分との間に生まれた子どもに冷淡であったため、女三宮は将来を悲しく思い、最後には出家します。

幼く無邪気で可愛らしい性格は柔らかいストロベリーのチョコレートで、柏木を惹きつけたような彼女の内面に潜む魅力はアーモンド味のチョコレートをミルクチョコレートでコーティングして金粉で表現しました。

## 商品名「すゑつむ花」

～末摘花(内面と外面)～

(光源氏)  
なつかしき  
色ともなしに  
何にこの  
すゑつむ花を  
袖にふれけむ

『源氏物語』末摘花(親しく心ひかれる色でもないのに、どうしてこんな末摘花に袖を触れてしまったのだろう—こんな女とどうして契りを結んでしまったのか) ※4

商品名の「すゑつむ花」は、不美人でありながらどうして末摘花に手を出し

てしまったんだろう、と光源氏が詠んだ和歌から取りました。不美人ではあるが純粋で美しい心を持った末摘花の内面と外面を、2種類のチョコレートで表現しました。

## 末摘花(内面)



末摘花の性格は、純粋で一途でした。光源氏が須磨に左遷されても、いつか光源氏が自分のことを思い出して会いに戻ってくると信じて待ち続けました。しかし、光源氏が都に戻ってきても末摘花の元を訪れる気配はありませんでした。それでも光源氏を愛し続ける末摘花の一途さは彼女の魅力であり、読者は光源氏と再会する時を願い、二人の恋の行方を応援することになるほどです。

末摘花の一途さを、甘みのあるイチジクのガナッシュとドライフルーツの入ったトリュフで表現しました。

## 末摘花(外面)



美人ばかりが登場する『源氏物語』の中で、末摘花は唯一の不美人として登場します。ある雪の朝、光源氏は初めて末摘花の容姿を目の当たりにします。末摘花の外見は、胴長で、鼻は高く長く、先の方が少し垂れ下がって赤く色づいていました。また、顔色は雪も恥じるほど真っ青で、額がとても広い上に驚くほどの面長でした。鼻が赤いと書かれているように、赤い鼻が目立つ容貌から、紅花の異名「末摘花」と呼ばれるようになりました。

光源氏が驚くほどの末摘花の強烈な容姿と紅花のトゲトゲとした花びらの様子をチョコレートで表現しました。また、末摘花の内面を甘いチョコレートで表現したのに対比して、苦みのあるビターチョコレートで仕上げています。



第6帖 末摘花～鼻を見て驚く光源氏～

## 商品名「光源氏」



和のイメージが強い『源氏物語』を、より多くの方々の手に取っていただくために、和洋折衷をテーマにしました。白餡とタルトのコラボレーションは完璧です。白餡の上に、アーモンドグイスを敷き詰めています。タルトの表面は、光源氏の美しさを粉糖で表現しました。栗が、光源氏を象徴しています。

## 商品名「花散里」



花散里は、心穏やかに優しく、あたたかい人柄です。花散里の「花」というのは、橘の花です。器量は良くなかったのですが、染物や裁縫が上手で、光源氏にとって心休まる大切な女性でした。光源氏と葵の上との子・夕霧などの教育も任せられ、生活を支える家庭的な役割を担っていました。

橘の咲く初夏のさわやかな風を抹茶のデコレーションで、その風に散る橘の花びらをホワイトチョコレートで表現しました。控えめな性格ながらも新しい女性の生き方をした強さを、甘さひかえめの酸味のきいた生地にしました。花散里の優しさをお菓子に込めて。

お求めいただいた皆様へ

このたびは京洋菓子司ジュヴァンセル様と私たち京都府立嵯峨野高等学校「京・平安文化論」ラボとのコラボ商品である洋菓子をご購入いただきましてありがとうございました。私たちのラボは、皆様にとしたら『源氏物語』の良さを知っていただけるかというテーマで、探究活動を行っています。そんな思いから、今回の企画を考えました。洋菓子の横にある二次元コードを読み込んでいただくと、その洋菓子を担当した私たちから、音声で人物紹介をしています。そして、よろしければ、この取り組みについてのアンケートにご協力ください。

出典:『新編日本古典文学全集』(小学館、1994-1996年)

- ※1 第23巻「源氏物語 4」 p505
- ※2 第21巻「源氏物語 2」 p35
- ※3 第23巻「源氏物語 4」 p291
- ※4 第20巻「源氏物語 1」 p300

## 商品名「薫る大将」



薫は『源氏物語』終盤の宇治十帖の主人公であり、何とも言い難い良い香りがする、心優しい男性です。本当は光源氏が父ではなく、柏木と女三宮との子であるという秘密を抱えて生きてきた薫。ある日、容姿端麗である浮舟という女性を垣間見て恋に落ちます。二人は惹かれあいながらも、さまざまな苦難に直面し、物語は怒涛の展開をおかえます。最愛の人である浮舟との燃えるような恋が、京都の宇治を舞台に描かれています。

宇治川が舞台であることから、チョコを川に見立て、薫の最愛の人である浮舟との燃えるような恋をフリーズドライのラズベリーで表現しました。舌触りのよいクッキーの食感や、ほんのりあまい抹茶の香りをお楽しみください。



第9帖 葵～葵の上と六条御息所との車争い～

## 商品名

### 「藤壺—内に秘めた恋情—」



藤壺は容姿端麗、才色兼備で、非の打ち所のない、完璧な女性として描かれており、光源氏にとって、永遠の理想の女性となる人物です。母の桐壺更衣とは血がつながっていませんが、藤壺は桐壺更衣にそっくりでした。桐壺更衣が亡くなってから、失意の中にいた光源氏の父・桐壺帝のもとに、藤壺は入内します。そして、父・桐壺帝の女御でありながら、光源氏は藤壺を慕うようになり、二人の間に禁断の子・冷泉帝が生まれます。藤壺は、罪悪感に苛まれることとなりますが、光源氏との子の冷泉帝を愛して守り抜きました。内に秘めた強さを持つ女性です。

世の人々から見た完璧な姿をフォンダンショコラという一見何もないケーキで、冷泉帝を愛し守り抜いた、その内に秘めた強さを赤いらズベリーソースで表しています。そして、その上には藤壺が亡くなった時期に咲いていて、光源氏が「今だけは喪の色に咲け」と願った桜をのせています。

アンケートはこちら!



<https://forms.gle/gYbGUCBLvDpkJQwFA>

嵯峨野高校生による『源氏物語』人物紹介

(「京洋菓子司ジュヴァンセル様×嵯峨野高校 コラボ企画」付録)

作成: 京都府立嵯峨野高等学校 アカデミックラボ「京・平安文化論」

監修: 京都先端科学大学 山本淳子先生

イラスト: ながたみどり先生

## 商品名

### 「葵の上—高嶺の姫君—」



葵の上は気高く、とても美しい女性です。位の高い左大臣家のお姫様で、光源氏の最初の正妻でした。しかし、葵の上はいつも光源氏になれずに、冷たい態度をとってしまいます。光源氏もそんな彼女に嫌気がさして、二人は結婚してから長い間、お互いに打ち解け合えないでいましたが、結婚10年、葵の上の懐妊をきっかけに少しずつ二人の距離は縮まっていきます。

葵の上は誰も触れられない高いところに一輪しゃんとまっすぐに咲く花のような雰囲気をもっています。彼女が『源氏物語』の中で時折見せる、箱入りのお姫様らしい少しわがままな振る舞いや、光源氏へのヤキモチを連想させるような言動からは、うぶなかわいらしさを感じることができます。

冷ややかさがある中にも、葵の上の心の奥に隠された光源氏への愛を感じることができます。

ケーキの周りに二重に重ねられた青いゼリーは、葵の上がまどう端麗さと、光源氏が感じた葵の上の冷ややかさを表現しました。その上に、葵の上の品格を表した銀粉を散らし、ケーキの一番上の部分には孤高な姿をイメージして、高嶺の花の百合を咲かせました。ケーキの中は、なかなか素直になれない彼女が、胸の奥に秘めた心を感じられるデザインとなっています。ぜひご賞味ください。